

【あ】

荒川の西遷（あらかわのせいせん）

新田開発、舟運路の確保、洪水防御などを目的に、徳川家康の命により、伊奈忠治によって大規模な河川改修が行われることになった。その一環として瀬替が行われ、1629年に現在の荒川の原形が完成した。

荒川放水路（あらかわほうすいろ）

1910年（明治43年）の大洪水を契機に、東京の下町を水害から守る抜本策として着手された。この工事は、北区の岩淵に水門を造って本流を仕切り、岩淵の下流から中川の河口方面に向けて、延長22km、幅500mもの放水路を掘るという大規模なもの。洪水時には、岩淵水門を閉めて本流（隅田川）の増水を抑え、洪水の大部分を幅広い放水路で一気に海に流下させる。全体の竣工には20年の歳月を要し、1930年（昭和5年）に完成した。

営巣（えいそう）

繁殖期に鳥が巣を作ること。

【か】

河床（かしょう）

河川の流れの通路となる細長い凹地で、水の流れている川底の部分を用いる。河床の高さは、洪水の時などに変わるので、定期的に計測が行われる。

河道（かどう）

川の流れの道筋のこと。

川の攪乱作用（かわのかくらんさよう）

洪水などの破壊的作用により、植生の遷移の進行が妨げられることにより川本来の植生が維持される。

川の流量（かわのりゅうりょう）

ある地点の横断面を単位時間に通過する水の体積のことで、通常立方メートル/秒で表す。流速を観測し、横断面積を乗じて求める。

冠水（かんすい）

出水や氾濫により普段は水のない土地が水につかることをいう。

後背湿地（こうはいしっち）...図1

自然堤防の背後にある湿地のこと。自然堤防の背後は、氾濫した水がたまりやすく、湿

地や湖沼となることが多い。

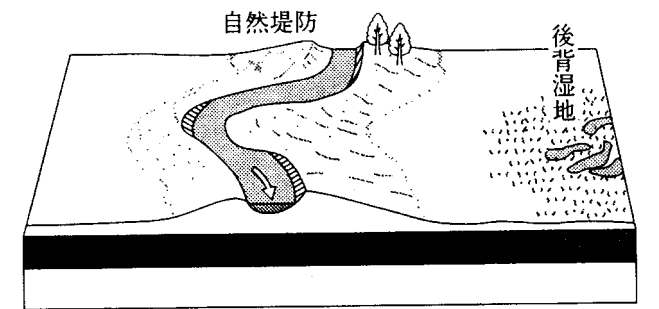
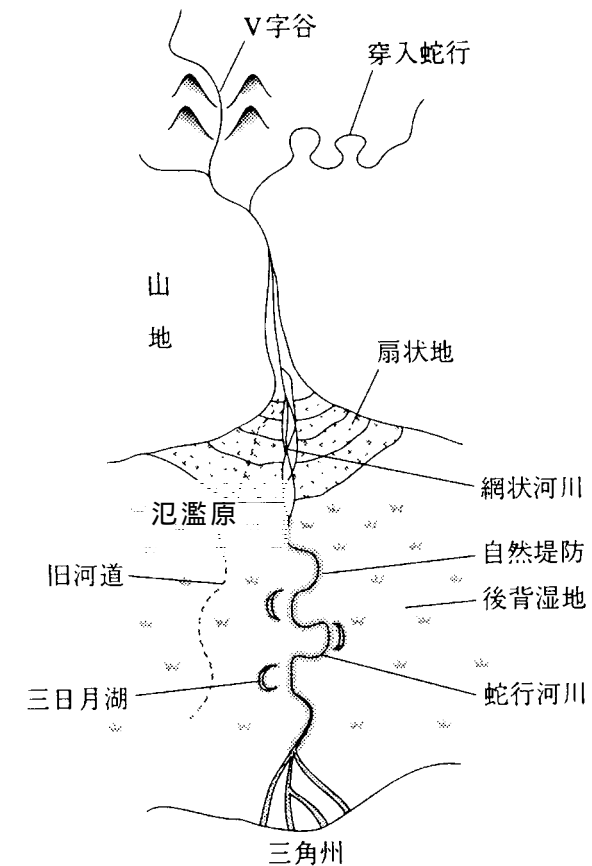


図1. 山から海に至る河川の形の変化

出典：川のなんでも小辞典（土木学会関西支部編）

【さ】

サイフォン

用水路等が河川と交差する場合に、河川を横過して河床下に埋設される水路構造物のこと。

左岸・右岸（さがん・うがん）

川の流れの方向（下流）に向かって右側を右岸、左側を左岸という。

自然堤防（しぜんていぼう）...図1

川に沿って見られる小さい地形の高まりのこと。洪水が氾濫した時、川水の中を浮遊しながら流れる細かい土砂が川岸近くに体積することで作られる。

捷水路（しょうすいろ）

蛇行した河道の区間を短縮するための人工水路のこと。ショートカットともいう。

植生（しょくせい）

ある地域に生育している植物の集団をまとめて表現するときに用いる。植生の具体的な広がりや地図化したものを植生図という。

シルト

粒径が 0.02～0.002mm の土を表す。0.002mm 未満の粒径のものは粘土という。

水位（すいゐ）

ある地点の水面の高さのことで、基準面からの高さを表す。基準面は川ごとに決められているが、荒川の場合、東京都中央区新川にある霊岸島水位観測所の約 7 年間の平均潮位を基準面としている。

水深（すいしん）

水位と河床の高さの差のこと。

瀬替（せがえ）

工事などに伴い、流路を替えること。

堰（せき）

取水、分流、潮止め等を目的として、水を堰きとめるために水路の中または流出口に設けた構造物のこと。水はこの上を越して流れる。水路の流量の測定にも使われる。

絶滅危惧種（ぜつめつきぐしゅ）

レッドデータブックの選定種のなかで、人為活動に伴う自然破壊や環境汚染、乱獲等により減少が著しく、人が保護の手を加えなければ遠からず絶滅する恐れのある生物種の内、特に絶滅の危惧に瀕している種。

絶滅の危惧の度合いで 類 > A 類 > B 類 > 類 > 準危惧の順となる。

遷移（せんゐ）

時間とともに、生育している植物群落が変化していく過程のこと。植生遷移ともいう。

潜在自然植生（せんざいしぜんしょくせい）

人間が耕作等を含めて一切の手を加えず、その土地の気候風土に応じて育つ植生のこと。

扇状地（せんじょうち）...図 1

河川が山地から平地へ流れ出す場合に流速を減じるので、これまで運搬してきた土砂などが谷の出口に堆積して、等高線がほぼ同心円状に配列されるような地形のこと。

【た】**地域個体群（ちいきこたいぐん）**

レッドデータブックの選定種のうち、国内的あるいは国際的に広い分布の種であっても地域的に見ると生息数の減少や絶滅の恐れのある種。

地下水位（ちかすゐゐ）

地中の土砂・岩石などの隙間・割目などにある水を地下水という。地下水の表面には傾斜があり、その傾斜の方向に流れている。この地下水の水面の高さのことをいう。

貯水池（ちよすゐち）

洪水時に流水の一部を平地部の河道の近傍に一次貯留して、ピーク時の流量を減ずるために、天然あるいは人工で作られた池のこと。

堤内地（ていないち）

堤防によって洪水の氾濫から守られる地域のこと。

堤外地（ていがいち）

堤防の川側のこと。

【は】**氾濫原（はんらんげん）...図 1**

河川の氾濫・河道変化によってできた低平な土地のこと。洪水時には川水に浸される。

BOD（ビーオーディ）

生物化学的酸素要求量と訳される。水の汚れの程度を示す指標の一つで、おもに河川水に用いられる。水中の有機物はバクテリアにより分解されるが、バクテリアが一定時間内に酸化分解するのに消費する酸素の量を重さで示したもの。

ビオトープ

動物や植物が恒常的に生活できるように造成または復元された小規模な生息空間。公園の造成・河川の整備の計画などに取り入れられている。ドイツ語で生物(bio)と場所(tope)を示す造語。

【ま】**武蔵水路（むさしすゐろ）**

利根川の利根大堰から、行田市、吹上町、鴻巣市を通る、利根川から荒川への連絡水路である。1968 年に完成している。

【や】

横堤（よこてい）...図 2

洪水を受け止めて、水の流を緩やかにするために作られた堤防で、流れにほぼ直角方向で本堤に設けられている。

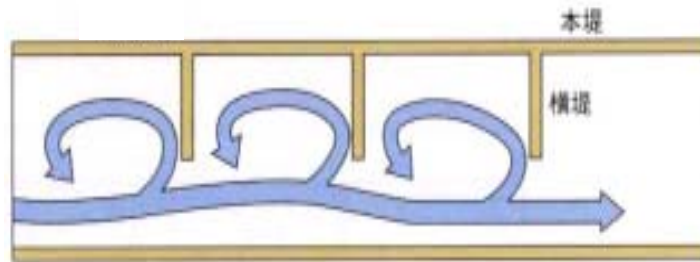


図 2. 横堤の仕組み

【ら】

レッドデータブック

レッドデータブックは、絶滅の恐れのある野生生物の形態や生態、生息状況をまとめた本で、「生存に関して赤信号が灯った生物に関する各種情報を記載した本」という意味である。1966年に国際自然保護連合（IUCN）が絶滅の恐れのある動植物の現状を世界的な規模で明らかにしたのが最初で、その後世界各国で独自の「レッドデータブック」が作成されている。日本でも1991年に脊椎動物及び無脊椎動物のリストが刊行されており、また、現在各都道府県でも独自の「レッドデータブック」が刊行されている。

流域（りゅういき）

ある川に雨が流入する地域全域を、その川の流域という。また、流域の互いに接する境界を分水界、分水界が山脈の場合は分水嶺という。